

1. 概要

- (1) IEA（国際エネルギー機関）が2014年10月14日に発表。
- (2) IEAは、毎年11月に出版する旗艦出版物「World Energy Outlook」に関連して、テーマ別、地域別のアウトルックを出版。2014年は投資アウトルック（6月発表）及びアフリカアウトルック。

2. 主な内容

- (1) 豊富なエネルギー資源
 - ① 近年5年間における世界での新しい油田・ガス田発見の約30%がサブサハラアフリカ。
 - ② 電力の20%を占める水力発電は、技術的ポテンシャルの10%未満しか活用されていない。
- (2) 貧しいエネルギー供給
 - ① サブサハラアフリカ人口の約2/3は、電力へのアクセスがない。
 - ② サブサハラアフリカ人口の約4/5は、料理を木質燃料に頼っている。
- (3) 将来のエネルギー見通し
 - ① サブサハラアフリカにおける将来の発電能力は4倍以上に増大。
(90GW (2012) → 380GW (2040))
 - ② その増大する発電能力のほぼ半分は再生可能エネルギー。
- (4) アフリカの世紀に向けた3つのアクション

以下の3つのアクションが、政府の統治改革を伴えば、サブサハラアフリカは2040年までに30%以上の経済成長が可能。

 - ① 電力セクターへの4500億ドルの投資

～2000年以降のエネルギーセクター投資の2/3は輸出向け投資。この比率を逆転させるとともに、特に電力セクターへの投資が重要。
 - ② 地域協力・統合のさらなる深化

～アフリカ大陸の水力発電資源ポテンシャルの最大限の活用。
 - ③ より良い資源と収入の管理

～ナイジェリアの石油抜き取りは15万バレル/日、その額は50億ドル/年以上。この額は2030年までに全ナイジェリア国民が電力アクセスを得られるために十分な投資額。